（様式８）

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　学術　）	氏名	OSMANI OSMAN
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

Re-Examination of the Nexus between Grand Corruption and Human Capacity Constraints in Afghanistan's Civil Service Sector

論文審査担当者

主　　査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	吉田　修	印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	川野徳幸	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	山根達郎	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	片柳真理	
審査委員	大阪大学大学院言語文化研究科	教授	山根　聡	

〔論文審査の要旨〕

本論文は、2001 年以降のアフガニスタンにおける巨大汚職 Grand Corruption と呼ばれる事象の政治動態が「失敗国家」における人的資源の不足といかに結びついているかを、巨大汚職の具体的事例の検討や、安全が確保できず、かつ資金が外国からの支援に依存しているという条件下での人材育成の問題点の詳細な検討を通じて明らかにするものである。

全体は序章、結論と本論 6 章からなり、序章では、アフガニスタンのような戦災に苦しむ国家が公部門における巨大汚職に苛まれるのはなぜか、特に国家再建と開発を司る、教育を受け熟練した献身的な公務員の不足と、他方でその公務員の腐敗と非効率、なかでも巨大汚職とが、いかに相互に関連しているのか、という問いを提示し、この関係が明らかになることが、アフガニスタンにおける大汚職を減少させることにつながる、との仮説を提示する。第 1 章は先行研究の分析であり、アフガニスタンにおいて汚職は近年の現象であること、一般的にも汚職に関する研究は近年になってようやく行われるようになったこと、特に巨大汚職問題が市場経済に関係して増大していること、またキャパシティ・ビルディングが汚職、特に巨大汚職の防止に有効か否かの研究は途上であり、処方箋として提示されているものも、アフガニスタンのような戦災の結果としての失敗国家における有効性が問われていること等を示す。第 2 章では本論文の方法として、著者のアフガニスタン公務員研修所長としてのネットワークを活かした閣僚、主要国大使、主要国援助団体現地事務所長など、アフガニスタン内外の要人への詳細な聞き取りや、アフガニスタンの主要税関 6 か所を含む現場の観察、政策文書分析などがあげられる。第 3 章では分裂国家としてのアフガニスタンの特徴として、人的資源と頭脳流出、巨大汚職の悪循環が存在することを述べ、第 4 章ではアフガニスタンにおける汚職、特に巨大汚職の問題を、戦災国家であるがゆえの安全保障の不足に求めつつ、巨大汚職に対して脆弱な 10 の部門の具体例とその構造を明らかにする。第 5 章は、「キャパシティ・ビルディング」が曖昧さを持つ概念であり、それゆえ脆弱国家への対策として支援国家からの期待を増大させつつも、逆に支

援国家内でその成果を短期的に求められるため、それが本来求める長期的な意義を喪失していること、しかしながら、巨大汚職を含めた腐敗に有効である可能性があることを示しつつ、アフガニスタン公務員研修所で行われている実践を通して、具体的なあり方を検証する。第 6 章はキャパシティ・ビルディングと巨大汚職との関係性を、戦災によって社会が分断され、軍閥が有力な政治家となるアフガニスタンにおける現実から分析し、彼らを変化させる手段として考察する。終章は結論で、人材育成における 5 つの機能等を示す。

本論文に対しては、審査委員からは、言及されている分析理論の使用方法が明確でないことや統計データが示されていないなどの問題点が指摘されたが、安全が確保されぬ戦災国家において、現場の実際に即した聞き取りデータを収集し、それらを用いてアフガニスタンにおける巨大汚職の実態を明らかにした点、また外国の支援による短期的成果を求めるキャパシティ・ビルディングの問題点を具体的に示し、より長期的で巨大汚職に対処しうるキャパシティ・ビルディングのあり方を提示しえた点は、失敗国家に関する研究に、より事実と実態に即した新たな視角と可能性をもたらした学術的な貢献であると、審査委員は一致して結論付けた。したがって、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があると認められる。